

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月25日(月)▼「銀漢俳句会」の選、坪井さんに送る。銀漢「新年俳句大会」の選句。終日家。転た寝など。BSテレビで小津安二郎の「秋刀魚の味」を見る。
26日(火)▼散歩がてら郵便局や買物など。このところ、おろし大根蕎麦、とろろ蕎麦などが好み。甘い物も。
27日(水)▼「新年俳句大会」の選句稿を大野田さんへ投函。三月号の「銀漢」のエッセイ粗書きする。夜、おでん。三浦大根が甘い。
28日(木)▼亡妻、光代さんの誕生日。生きていれば七十三歳。「銀漢」三月号のエッセイ、自句自解をまとめる。午後、成城仲間二家族来宅。歓談に少々加わる。料理持ち寄りとして私はセロリと海老の豆鼓炒めを供す。
29日(金)▼天気良し。散歩がてら買物など。「上島珈琲店」でミルクティー和三盆入りをしみじみ飲む。夜、サラダとバスタ。
30日(土)▼朝、味噌汁と焼餅の海苔巻。昼、母とヨーグルト。夜、南瓜と豆の炊き合せ。蒸し鶏と胡瓜、晒し葱の胡麻ドレッシング和。鶏つくね鍋。
31日(日)▼三月号の自句自解、「銀漢」のエッセイ、盤水の一句など仕上げる。正月料理の準備手伝う。黒豆煮、数の子、ごまめ、煮物……。夜、成城仲間の中川家へ四家族が集まる恒例の年忘れの会。十八人と犬三匹。二十一時前、一足先に帰宅。計報あり。「白熱句会」「火の会」の仲間、「風」系でもある「りいの」主宰檜山哲彦さん逝去と。十一月、「りいの」の創刊十五周年記念の祝賀会は残念ながら欠席したが、只々、無念である。東京藝術大学教授退

がまた……。
7日(日)▼「銀漢」二月号の校正終え、武田編集長へ投函。天気良し。買物がてら散策。作句。
8日(月)▼「銀漢」三月号の選句作業に入る。三浦大根と柚子が余っていたので甘酢漬に。夜、家族帰宅。夜から三回目の抗癌剤服用。
9日(火)▼終日選句。途中、昼寝も。NHKの番組「語ろう！俳句」のゲスト出演の依頼あり、二月は無理にて五月頃で受諾。番組に合わせた原稿依頼も受ける。夜、豚しゃぶ。といつても私は野菜ばかり。
10日(水)▼終日選句。途中、転た寝。ジャガイモのアンチョビバターソテーは好評。
11日(木)▼今日も選句。抗癌剤服用の副作用か、気怠さが出て集中力が続かない(この程度で済んで幸いだ……。)
12日(金)▼午後、下北沢の喫茶店にてNHK出版「NHK俳句」担当の浦川聡子さんと打合せ。二月号の「一句句菜」刷り上り。次は秋にも組みたいと。あと下北沢で宝飾店を開いている甥の今村正俊君を訪ね、新年の挨拶。私が元氣なのに驚いている。あと渋谷に出て変貌した街の様子を見物する。
13日(土)▼森羽久衣句集「匙のうら」到着。山口一滴さんの優しく豊かな色彩の装。小野寺清人さんの跋文は核心を突いた名文。
14日(日)▼「春耕新年俳句大会」の選句(応募六百六句)。選評を投函。「銀漢本部句会」の選句。
15日(月)▼昼、「アルカディア市ヶ谷私学会館」にて井蛙さんと会い、「銀漢俳句会総会・新年会」の進行につき打合せ。会場を確認。とろろ蕎麦の昼食。別れて靖国神社を参拝。九段会館で一休み。

任式のことなど懐かしく思い出す。ご冥福を祈る。

1月1日(月)▼五時起床。新年に辿り着くことができたことを有難く思う。八百万の神、先祖、仲間のお陰である。今回の病気では仲間からはお守りを十三、祈禱札を四枚頂いている。七時、窓から初日の出を拝す。久々、般若心経を唱える。福茶戴く。家族揃って昼から新年の宴。「プロセッコ」「越乃寒梅」少々。お節の重は中川家から毎年来る。今年は金沢の「金城樓」製。十四時半、喜多見の水川神社へ初詣。コロナ明けとあってかいつになく混んでいる。一眠り。夕方、杏一家来宅。新年会。十二人。
2日(火)▼朝、山羊のとろろ蕎麦。昼、家族揃い雑煮(昨日は白味噌、今日は醤油味)、鰯酒少々に酔って昼寝。夜、すき焼き。白滝、焼豆腐がいい。
3日(水)▼作句。何人かに便り。家族は山梨の宮澤の母へ新年の挨拶へ。今日はテレビを見たり、転た寝をしたりだらだと過ごす。
4日(木)▼十三時半、荻窪の「光明院観音ホール」にて「りいの」主宰檜山哲彦さんのお別れ会。奥様の嘆きはいかほどかと……。大勢の俳句仲間とお会いする。皆、小生のことを案じてくれており、回復を喜んで下さる。(友逝くや初松籟の響動むなか)
5日(金)▼快晴。風無し。庭で鳥声を聞きながら日向ぼっこ。この頃、ミルクティーが好み。昼、スッポンスープの雑煮。夜、伊那男流粕汁(大根・人参・油揚げを織切り)、家族は明日軽井沢へ行くというので賞味期限の迫ったローストビーフ、冷凍しておいた鮑の酒蒸し、からすみ、芽キャベツのアンチョビバター炒めなどなかなか贅沢。
6日(土)▼伊那在住の高校同期、松崎正君より、同期の春日貞秋君が四日に逝去との連絡あり。松崎逍遊君に続いて、強烈に生きた人

三十年位前、三輪初子さんの「チャンピオン」の祝賀会以来。その後見事に外装を残して改築。
16日(火)▼三月号慧星集の選句。選評を終えて辻本理恵さんに投函。「第十八回角川全国俳句大賞」本選の選句に入る。九ごとキャベツとウインナソーセージのスープ煮。
17日(水)▼四国の同人片山一行氏のご尊父、辰巳氏逝去の報あり。弔意のメール送る。夜、娘の作った鮫鱈鍋。
18日(木)▼今日は少々気怠さがあり、一日休養日としてぐずぐず過ごす。千葉から到来の鮑の照焼、三浦から到来のカリフラワーとプロッコリーのサラダ、能登から到来の蕪餅。
19日(金)▼数句会の選句。「角川全国俳句大賞」の選句。鮑大根。
20日(土)▼「角川季語別俳句集成」(年末刊行予定)の小生の掲載例句の確認依頼あり、点検。百句ほど。
21日(日)▼妻、光代の十八回目の命日。雪の降る寒い日であった。：宮澤事務所へアメイクの中川さんに髪を切って貰う。雑誌用の近影を宮澤に撮って貰う。まだ遺影ではない。一塩にしておいた鮑の酒粕煮(信州の年越肴)。数句会の選。
22日(月)▼「角川全国俳句大賞」の選句、特選句評投函。昨日特売で入手の鮭の刺身、山かけ。韭のお浸しの黄身和。蕪の柚子風味漬。
23日(火)▼午前中で三回目の抗癌剤の服用終わる。このあと、一週間の休み。毎日新聞のブログ「俳句万華鏡」の「俳人の風景」を前回で終了し、「食べ物歳時記」へ。第一回は鮫鱈、鱈とし、執筆、投函。今月約束の仕事はこれで全部終了。